

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

NZ、3四半期ぶりの高成長も不透明さ残る (Asia Weekly (12/16~12/20))

～中国の製造業景況感は先行きの不安をうかがわせる内容～

発表日: 2013 年 12 月 20 日 (金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/16(月)	(中国)12 月 HSBC 製造業 PMI(速報値)	50.5	50.9	50.8
	(インド)11 月卸売物価(前年比)	+7.52%	+7.00%	+7.00%
	(フィリピン)10 月海外労働者送金(前年比)	+7.0%	+5.3%	+5.3%
12/17(火)	(シンガポール)11 月非石油輸出(前年比)	▲8.8%	+4.3%	+2.8%
	(香港)11 月失業率(季調済)	3.3%	3.3%	3.3%
12/18(水)	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	7.75%	8.00%	7.75%
	(リバースレポ金利)	6.75%	7.00%	6.75%
	(現金準備率)	4.00%	4.00%	4.00%
	(マレーシア)11 月消費者物価(前年比)	+2.9%	+2.9%	+2.8%
12/19(木)	(ニュージーランド)7-9 月期実質 GDP(前年比)	+3.5%	+3.3%	+2.5%
	11 月輸出(億 NZドル)	44.7	--	42.5
	11 月輸入(億 NZドル)	42.9	--	44.2
12/20(金)	(台湾)11 月輸出受注(前年比)	+0.8%	▲1.8%	+3.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド] ～景気は3四半期ぶりの高成長をみせるも、先行きへの不透明感が高まる可能性あり～

19 日に発表された 7-9 月期の実質 GDP 成長率は前年同期比 +3.5% となり、前期 (同 +2.5%) から加速した。前期比年率も +5.61% と前期 (同 +1.22%) から大幅に加速しており、3 四半期ぶりに 5% を上回る大幅な景気拡大となった。干ばつの影響などで年前半は低迷していた農業生産が大幅に拡大したほか、製造業も 3 四半期ぶりに生産拡大に転じ、サービス業も堅調な推移が続いている。ただし、需要項目からは足下の景気拡大が必ずしも堅調な需要増加に裏打ちされたものではない実態が浮かび上がる。堅調な拡大が続いてきた個人消費はカンタベリー地震からの復興需要の一巡に加えて、金融市場の混乱による通貨 NZ ドル安で実質購買力が低下したことで鈍化しており、住宅を中心とする固定資本投資の伸びにも頭打ちの兆候が出ている。さらに、隣国である豪州の景気鈍化やアジア新興国景気の不透明感などを背景に輸出は 2 四半期連続で減速基調を強めるなど、外需を取り巻く状況は依然として厳しい。一方、今期は年度初めの時期と重なったことから、政府消費が大幅に拡大して景気を下支えした。さらに、在庫投資の拡大も景気を大きく押し上げる一因になっており、先行きについてはこの調整も景気の足かせになることが懸念される。

同日発表された 11 月の輸出額は前年同月比 +16.9% となり、前月 (同 +22.4%) から減速した。ただし、前月比は +7.9% と前月 (同 ▲5.0%) から拡大に転じており、主要輸出品である乳製品をはじめとする食料品の輸出が拡大したほか、鉱物資源の輸出も堅調に推移している。地域別では、米国や日本など先進国向けは依然低調な推移が続いているものの、中国をはじめとするアジア新興国や中東向けは大幅に拡大しており、中国向けが豪州向けを上回り、最大の輸出相手になっている。一方の輸入額は前年同月比 ▲2.8% となり、前月 (同 +5.0%) から 2 ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比は +1.9% と前月 (同 +0.0%) に続いて拡大

しており、機械製品関連の輸入は堅調な一方、原油及び石油製品関連の輸入が頭打ちして全体の重石になっている。結果、貿易収支は+1.83 億NZドルと前月（▲1.68 億NZドル）から5ヶ月ぶりに黒字に転じた。

図1 NZ 実質 GDP 成長率の推移



図2 NZ 貿易動向の推移



【中国】 ～12月の製造業PMIは5ヶ月連続で50超も、足下の生産鈍化、先行きの輸入に不安がくすぶる～

16日、HSBCが発表した12月の製造業PMI（購買担当者景況感）の速報値は50.5となり、5ヶ月連続で景況感の別れ目となる50を上回ったものの、前月（50.8）から▲0.3p低下した。足下の生産動向を示す「生産（51.8）」は前月比▲0.4p低下しており、これに伴って「雇用（48.8）」も同▲0.1p低下するなど、足下の状況が悪化したことが影響を与えている。一方、先行きの生産に影響を与える「新規受注（51.8）」は前月比▲0.1p低下したものの、「輸出向け新規受注（50.3）」は同+0.0pとほぼ横這いで推移し、ともに50を上回っており、「受注残（51.6）」も同▲0.2p低下したものの50を上回る水準を維持するなど、急激な生産調整に直面するリスクは高くない。さらに、「完成品在庫（50.0）」は前月比+0.3p上昇して2ヶ月ぶりに50に達しており、在庫調整が生産の足かせになるリスクも考えにくい。なお、国際商品市況の調整などを受けて「投入価格（50.3）」は前月比▲2.6pも低下したものの、「購入在庫（48.7）」は同▲0.8p低下し、「購入（51.4）」も同▲0.8pも低下している状況を勘案すれば、しばらくは海外からの輸入が抑制される可能性は予想され、中国経済への依存度が高い国々にとっては厳しい状況に直面することが考えられる。

図3 CN 製造業PMIの推移



【シンガポール】 ～中国景気の鈍化を受けて輸出に頭打ちの兆候が出ており、輸入にも下押し圧力に～

17日に発表された11月の非石油輸出額は前年同月比▲8.8%となり、前月（同+2.8%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲9.3%と前月（同+3.2%）から3ヶ月ぶりに減少に転じており、中国景気の勢いに陰りが出ていることが影響を与えていると考えられる。主力の輸出財である電子管をはじめとする電子機器の輸出が頭打ちしているほか、電子部品関連でも全般的に鈍化基調が強まっている。原油関連を含めた総輸出額も前年同月比+1.0%と前年を上回る伸びを維持しているものの、前月（同+11.2%）から減速している。前月比も▲7.6%と前月（同+3.2%）から4ヶ月ぶりに減少に転じており、原油以外の輸出が全体の足を引っ張る格好となった。一方の輸入額は前年同月比▲3.3%となり、前月（同+4.3%）から5ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに留まった。前月比も▲7.4%と前月（同+0.6%）から3ヶ月ぶりに減少に転じており、輸出に頭打ち感が出ていることが輸入の足かせになっていると考えられる。結果、貿易収支は+35.98 億SG

ドルと前月（+66.94 億SGドル）から黒字幅が縮小している。

図4 SG 貿易動向の推移



【台湾】 ～米国や中国本土向けは頭打ちするも、日本や欧州向けの堅調で単月の輸出受注額は過去最高に～

20日に発表された11月の輸出受注は前年同月比+0.8%となり、前月（同+3.2%）から減速した。前月比も5ヶ月連続で拡大しており、単月ベースとしての輸出額は過去最高を更新している。米国向けは鈍化したほか、中国本土向けにも頭打ちの動きが出ているものの、日本や欧州向けは堅調な推移をみせており、その他の新興国向けの拡大も全体を押し上げている。財別でも、主力の輸出財であるIT関連や電子部品関連の堅調が全体をけん引しており、当面の輸出を下支えするものと期待される。

図5 TW 輸出受注の推移



【フィリピン】 ～移民送金の堅調に加えて通貨ペソ安による膨張は、消費の押し上げに繋がる期待～

16日に発表された10月の海外労働者送金流入額は前年同月比+7.0%となり、前月（同+5.3%）から加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も増加しており、単月ベースの流入額として過去最高額を更新している。さらに、このところの国際金融市場における通貨ペソ安に伴い、ペソ建ての流入額は前年同月比+11.4%と4ヶ月連続で二桁%の伸びを続けており、同国経済のけん引役である個人消費の下支えが期待される。堅調な景気が続く米国からの流入のほか、中東やアジア諸国、欧州からの流入も拡大しており、全般的に底堅い流入が続いている。

図6 PH 移民送金の推移



図7 PH ペソ相場(対ドル)の推移



【マレーシア】 ～最低賃金引き上げなどの影響は残るが、景気の先行き不透明感などが物価上昇を抑制～

18日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+2.9%となり、前月（同+2.8%）から加速した。ただ

し、前月比は+0.28%と前月（同+0.37%）から上昇ペースは鈍化しており、食料品価格や不動産価格のほか、最低賃金の大幅引き上げなどの影響でサービス価格も上昇するなど、物価上昇要因になる一方、先行きの景気に対する不透明感を背景に消費財全般で価格が下落しており、上昇圧力が抑えられた。春先以降の国際金融市場の混乱に伴う通貨リング安圧力が落ち着きを取り戻していることも、輸入物価の上昇圧力の緩和に繋がっていると考えられる。

図 8 MY インフレ率の推移

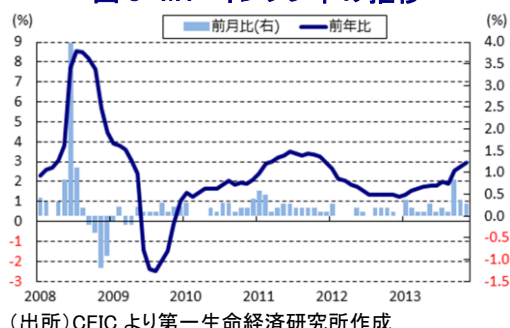


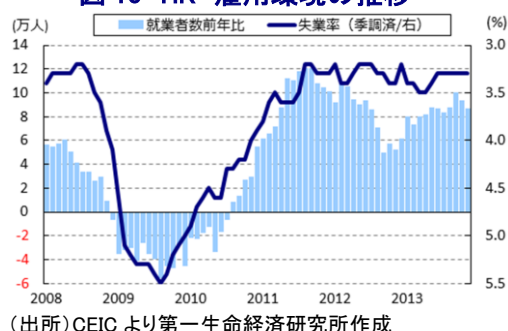
図 9 MY リンギ相場(対ドル)の推移



[香港] ～中国本土景気に頭打ちの兆しがうかがえるなか、香港の雇用改善基調にも頭打ちの動き～

17日に発表された11月の失業率（季調済）は3.3%となり、前月（3.3%）と同じであった。ただし、雇用者数は前年同月比+8.7万人と前月（同+9.3万人）から拡大ペースは鈍化しており、失業者数は同+0.2万人と前月（同▲0.1万人）から4ヶ月ぶりに増加に転じるなど、雇用の改善基調は頭打ちの様相を強めている。中国本土の景気回復も頭打ちしつつあることも、少なからず影響しているものと思われる。

図 10 HK 雇用環境の推移



以 上